

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 138

江戸川区立新堀小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差									
学年		第6学年		学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	
令和12年度の目標				令和12年度の目標									
令和11年度の目標				令和11年度の目標									
令和10年度の目標				令和10年度の目標									
令和9年度の目標				令和9年度の目標									
令和8年度の目標	-3	-3	-6	令和8年度の目標	0	0	0	-2	0	0	-2	-2	
令和7年度の結果	-10.7	-13.0	-23.7	令和7年度の結果	-2.9	-3.1	-6.7	-10.5	-5.1	-6.0	-10.7	-13.0	
令和6年度の結果	-8.3	-7.9	-16.2	令和6年度の結果	-9.6	-15.3	-7.2	-9.3	-11.7	-14.9	-8.3	-7.9	
令和5年度の結果	-4	-4	-8	令和5年度の結果									
年度	令和7年度			令和8年度									
内容	成果と課題			目標			目標達成に向けた取組						
学校全体	【成果】 ・国語科では、4～6年生を対象に「よむYOMUワークシート」の取組を行い、読解力の力を伸ばした。 ・算数科では、東京ベシックドリルやドリルパークを活用した反復練習を継続的に行った。また、個別プリントを活用して苦手分野の復習に取り組んで学力の底上げに努めた。 【課題】 ・国語科では、「書くこと」の領域の問題で正答率が低く出ている。特に6年生では全国平均から20点以下回っている。 ・算数科では、「測定」の領域の問題の正答率が低く出ている。量感や単位理解に課題がみられる			・習熟度に合わせた授業と個別指導を充実させ、一人一人が「わかる・できる」を実感できる授業づくりを推進する。 ・算数科では、全学年を通して、自分の考えを図・式・言葉を用いて説明できる児童の育成をする。 ・国語科では、根拠を明確にしながら、自分の考えを表現できる児童の育成をする。 ・基礎的・基本的な計算技能を身に付け、自信をもって学習に取り組めるようにする。			<国語科> ・4年生以上では、「YOMUYOMUワークシート」に取り組み、文章を読み取る力を高める。また、生成AIを活用し記事の内容を掘り下げることで、読解力も高める。 ・テストワークをプレテストとして活用する。 <算数科> ・保護者と連携し、家庭学習の習慣化を図る。また、ドリルパークや算数ドリルを活用し、四則演算を反復練習し内容の定着を図る。 ・テストワークをプレテストとして活用する。						
第1学年	【成果】 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて読むことができる。 ・繰り上がり、繰り下がりがある計算をすることができる。 【課題】 ・言葉の意味を考えて、文章を正しく読むことができない児童が2割程度いる。 ・繰り上がり、繰り下がりがある計算に苦手意識をもつ児童が2割程度いる。			・学年全体を通して基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける。 ・自分の考えや気持ちを書き表す力を育成する。			<国語科> ・音読や視写、ひらがな・カタカナの練習を継続的にを行い、文字や言葉の定着を図る。 ・日常の言葉集めや発表活動を通して、主述を意識した簡単な短文づくりに取り組み、伝え合う基礎を高める。 <算数科> ・文章題は「キーワード」に線を引く、「図に表す」など読み取りスキルをルーティン化する。 ・具体物や絵、簡単な図を用いて、自分の考えを表す活動を通して、数量関係を身に付けさせるとともに自分の考えをもてるようにする。						
第2学年	【成果】 ○音読と丁寧に指導したことで、全児童が語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて読むことができる。 【課題】 ○算数科の「学年末の九九テスト」では、1分以内に九九を唱えることができない児童が1割程度いる。 ○自分の考えを簡単な表やグラフを使って、表現できない児童が2割程度いる。			・基本的な学習をくり返し行い定着させる。 ・自分の考えや気持ちを相手に伝えられるようにする。			<国語科> ・音読を通して、語彙を増やす。 ・漢字の定着をさせる。 <算数科> ・毎時間1分計算を継続する。 ・既習の内容から自分で考えられる力を引き出す。						
第3学年	【成果】 ○国語科では、決まった文字数で自分の考えを書く学習を継続して行い、表現力の向上に努めた。 ○算数科では、東京ベシックドリルやドリルパークを活用した反復練習を継続的に行った。 【課題】 ○日々の読書や音読を通して、読解力を更に身に付けさせる。 ○「図形」や「測定」領域の正答率が低いため、授業や家庭学習で反復学習を行う。			・基礎的・基本的な学習を定着させる。 ・自分の考えや気持ちを表現できるようにする。			<国語科> ・音読や視写、漢字の練習を継続的にを行い、文字や言葉の定着を図る。 ・叙述から登場人物の気持ちを読み取る。 <算数科> ・かけ算、わり算の仕方を理解し、計算ができるようにする。 ・具体物や絵、簡単な図を用いて、自分の考えを表す活動を通して、数量関係を身に付けさせるとともに自分の考えをもてるようにする。						
第4学年	【成果】 ○国語科では、「よむYOMUワークシート」の取組を行い、読解力の力を伸ばした。 【課題】 ○「図形」や「測定」領域の正答数が低いため、授業や家庭学習で反復練習を行う。			・UDLのガイドラインに沿って、子供たちが主体的かつ、個別最適な学び方になるように努める。 ・算数科では、習熟度別指導やドリルパーク等を活用した繰り返し学習で計算力を高め、さらに自分の考えを図・式・言葉を用いて説明できる児童の育成をする。 ・国語科では、根拠を明確にしながら、自分の考えを表現できる児童の育成をする。			<国語科> ・「YOMUYOMUワークシート」に取り組み、文章を読み取る力を高める。 ・音読や視写、漢字の練習を継続的にを行い、文字や言葉の定着を図る。 ・叙述から登場人物の気持ちを読み取り、根拠をもって自分の考えを表現できるようにする。 <算数科> ・ドリルパークや算数ドリルを活用し、四則演算を反復練習し内容の定着を図る。 ・図や式、言葉を用いて自分の考えを表す活動を通して、友達と対話し、協働的に学ぶ機会を多く取り入れることで自分の考えをもち、表現できるようにする。						
第5学年	【成果】 ・国語科では、江戸川区学力定着度調査の平均正答率が前年度よりも6.6ポイント増加した。 ・算数科では、江戸川区学力定着度調査の平均正答率が、前年度よりも10ポイント増加した。 【課題】 ・国語科では、「知識・理解」と「書くこと」の平均正答率が、他よりも低くなっている。 ・算数科では、「思考・判断」と「変化と関係」の平均正答率が、他よりも低くなっている。			・読解力、計算力を身に付け、基礎的な学習能力の定着と向上させる。 ・国語科では、叙述を根拠に作者の思いや考えを読み取る力を育成する。 ・算数科では、習熟度別指導において個々に合わせた進度の中で理解を深められる指導を充実させる。自分の考えを図や式を用いて説明できる力を育成する。			<国語科> ・音読、視写を継続的にを行い読解力、漢字率の向上と定着を図る。 ・登場人物の気持ちや、筆者の考えを叙述から読み取り、自分の考えや意見を伝える力を高める。 <算数科> ・かけ算、わり算の仕方四則演算の定着を図り、基礎的な計算力の向上を図る。 ・ドリルパークやプレテストを授業内で活用する。						
第6学年	【成果】 ・国語科と算数科では、全国学力・学習状況調査において、思考・判断・表現よりも知識・理解の平均正答率が10ポイント程度高かった。 ・国語科において江戸川区学力定着度調査では、前年度よりも平均正答率は2.9ポイント増加した。 【課題】 ・国語科では、「読むこと」の正答率が44.2%であり、全国よりも15ポイント程度低くなっている。 ・基礎的・基本的な計算力が課題である。			・基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、自信をもって学習に取り組めるようにする。 ・算数科では、各単元で自分の考えを図・式・言葉を用いて説明できる児童の育成をする。また、習熟度に合わせた授業の進行と個別指導を充実させ、一人一人が「わかる・できる」を実感できる授業づくりを推進する。 ・国語科では、根拠を明確にしながら、自分の考えを表現できる児童の育成をする。			<国語科> ・音読を継続的にを行い、文字や言葉の定着を図る。 ・日常の言葉集めや発表活動を通して、筋道を立てて考える力や豊かにする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高める。 <算数科> ・ドリルパークや算数ドリルを活用し、四則演算を反復練習し内容の定着を図る。 ・テストワークをプレテストとして活用する。 ・具体物や絵、簡単な図を用いて、自分の考えを表す活動を通して、数量関係を身に付けさせるとともに自分の考えをもてるようにする。						